

天草市議会総務政策委員会意見交換会の参考資料

2023年2月3日

1、天草地域総合研究所の目指すもの

総研のビジョンは20年後の世界で最も幸せな高齢社会のモデルです。そのために、行政は縦軸、民間は横軸で、総研は民間の横の協調連携のプラットフォームとして、地域の課題を解決するためにあらゆる団体と連携して取り組みます。

2、具体的な取り組みの実績

【令和2年度】

- ① 令和2年度初めから、建築士会、宅建業協会、司法書士会、社会福祉協議会、天草市地域政策課、まちづくり協議会などと一緒に「空き家勉強会」を重ねる。
- ② 社団法人設立以前に、天草市内5地区（本町鶴、新和町諏訪、栖本町古江、倉岳町境目、御所浦町椈木）の戸別訪問による空き家調査を、区長、民生員、建築士と協力して行う。この時は、空き家だけが対象

【令和3年度】

- ① 令和2年度の「空き家勉強会」を通じて、法人設立の機運が高まり7月1日に非営利型一般社団法人「天草地域総合研究所」を設立。地域の課題は空き家だけでなく、少子高齢化、経済衰退など多岐にわたるので名称を「地域総合研究所」とする。
- ② 一般財団法人「ロングステイ財団」からロングステイアドバイザーを招き、前年度に調査をした地域の課題について住民と共に話し合う。中でも、鶴地区の住民の意識改革と取り組みは目覚ましく、住民主体でキャンプ場の整備がはじまる。

【令和4年度】

- ① 総研のメンバーの永田章一さんが、空き倉庫を活用してプロレス殿堂館を4月にオープンする。
- ② 行政委託の鶴地区で天草移住体験ツアー（参加者6名）を11月に開催。
- ③ ロングステイ財団の協力により、観光庁の看板商品創出事業を活用して「天草八十八ヶ所霊場巡りプロジェクト」を実施し、天草周遊の仕組み作りを行う。（12月8人、1月9人のモニター参加）
- ④ 空き家調査を、現存の空き家だけでなく、将来の空き家予防のため、後

継者がいない高齢者世帯も含めて、以下の地区で取り組んでいる。(牛深町天附・天草町下田南・五和町御領)

そこでは、区長、民生委員を中心に、総研の建築士会の会員と、地域リーダーが参画して、丁寧に戸別訪問しながら、現在の所有者が健在なうちに、土地建物をどのようにするか意思決定をするため「おうちの手帳」を作って、調査の結果を記載してお渡ししている。

同時に、社会福祉協議会と連携して「命のバトン」を、天草郡市医師会と連携して「わたしのノート」の普及啓発も行っている。

3、 来年度以降の活動目標

1) 空き家調査の拡充

社会福祉協議会、医師会と連携して、空き家調査を通して、高齢者世帯の命と財産を守る住民主体の取り組みを広げる。

2) 移住体験施設の充実

天草へ移住するために天草に現地見学にくる人のために短期、中期の滞在施設を市内の各所に設ける。(空き家調査の結果、利活用できる物件を充てる)

3) 天草周遊の仕組み作り

移住前に、天草をよく知ってもらうための新しい観光スポットとして「のさりの島巡り」で、地域住民が空き家を活用して接待する場所を作る。現在、めいどサロン吉野屋(棚底)、めいどサロンときわ屋(牛深)、真田十八屋敷(下田南)、プロレス殿堂館(御領)などがあり、「のさりの島巡りスタンプラリー」を令和5年4月からオープンする。ポイントは空き家を活用した地域の接待所として取り組む。

4) 天草学の確立

天草らしい幸せな島づくりを20年プランで実施するため、天草の歴史、文化、伝統、自然、環境などを総合的に研究する「天草学」を各界の識者と共に確率していく。

以上